

あいのかぜ



特集

ジブンらしく生きる アナタらしく輝ける社会

男女共同参画とやま市民フェスティバル2021

令和3年度 男女共同参画社会づくり作文コンクール

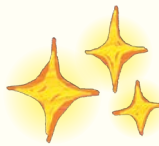


あいのかぜとは？

男女共同参画社会の実現に向けて、市民一人ひとりが
男女共同参画社会に関する正しい理解と認識を深めることを目的に、
公募市民3人からなる編集委員によって企画・編集された情報交流誌です。



ジブンらしく生きる アナタらしく輝ける社会



年齢や性別などの固定観念に縛られず、誰もがやりたいことに挑戦でき、個性や能力を発揮できる社会って素敵ですね。それが、私たちの目指す男女共同参画社会です。

今回は、自分の好きなこと、やりたいことを仕事にして活躍する方々や、自分らしく輝ける社会への変化、そして、その変化を支える企業取材しました。

ジブンらしく生きる



1 子どもを3人育て、50歳で起業 健口を届け続ける伝道師

精田 紀代美 さん

「男性優位の職場にサヨナラ、
私らしい仕事を！」

…3ページ

2 外見を変えると内面も変わる 価値をあげるためのメンズ美容

百塚 慎哉 さん

「男性にも、美容という新たな
付加価値を！」

…4ページ



3 独学でミシンをマスター 何かを作りたいという気持ちが原点

高島 哲夫 さん

「女性も男性も関係なく、
ものづくりって楽しい！」

…5ページ

アナタらしく輝ける社会

1 いま知りたい!ジブンらしく輝く 富山市「制服」最前線!!

株式会社スクールエー

…6ページ



2 女性たちがジブンらしく輝く社会には 未来へつながる希望がある ～それを応援し支える活動とは～

株式会社クルサー

…8ページ



ジブンらしく生きる 1

子どもを3人育て、50歳で起業 健口を届け続ける伝道師



口腔ケアのスペシャリストとして活動中の精田紀代美さん。様々なアイデアで歯科衛生士の可能性を広げ、2015年からは笑いトークで口の健康を伝える講演活動をスタート。母、祖母の顔も持ち、歯科衛生士として事業を展開する精田紀代美さんにいつまでも輝く秘訣を伺いました。

長年勤めた組織を辞めて、 独立された理由は?

組織にいた当時は男女平等が浸透していませんでした。昇進するのは男性。お茶汲みするのは女性と誰が決めたわけでもないのにまかり通っていたのです。

一人だけ性別に関係なく付き合ってくれた課長がいたのですが、その時は自由に生き生きと仕事ができなかった。でもその人だけだったから。そのうち、私も年齢を重ね、肩書きが変わっていくと事務仕事ばかりになって、現場から離れていきました。現場第一主義だったのもあって、私にはもっとできることがあるんじゃないかと一大決心をして退職しました。

当時は女性の起業家が今よりも少なかったと 思いすがどうでしたか?

退職し起業したときは、歯ブラシ屋として生計を立てていこうと考えていました。ところが、年間14万円しか売り上げがなくて(苦笑)。色々な事も言われたけど、組織の中にいたときは違って、自分に決定権があり、自分の責任で自由にできるので、やりがいがありましたね。

パートナーの反応は?

会社員だった夫は組織の大変さを分かっていたので独立の話をして反対はしませんでした。事業を始めて売り上げが厳しかったときは、支えになってくれて助かりましたね。定年を迎え、会社をやめたあとは(株)Teeth Aiの在庫管理などを手伝ってくれています。



西部中学校での出張講座。
精田さんの講座はいつも笑顔で包まれている。



profile せいだきよみ
精田 紀代美 さん

1950年生まれ。県の歯科衛生士として50歳まで勤め、退職。2001年「(株)Teeth Ai(ティース・アイ)」を設立。2009年には「オーラルキャリアアカデミー・ジャパン」を開校。幼児から高齢者、介護職員などを対象に幅広く講演・普及活動を行っている。Youtuberとしても活躍。

勤めながら3人のお子さんを育てるのは 大変ではありませんでしたか?

当時は泊まりがけの仕事があっても、子どもが熱を出せば電車を乗り継いででも帰りました。家族は家にいるんですけど、やっぱりお母さん、お母さんと言われてね。子どもは好きだったので、育児の環境がよければ、もっと子どもが欲しかったかな。

ただ、育児や家事って一度にいろんなことをこなすでしょ。洗濯、子どもの世話、料理しながらの「ながら族」!これが効率よく仕事をする訓練になったのかも。でも、周りの人からも育児の協力があれば、当時からもっと能力を発揮できたかもしれませぬ。皆が能力を発揮するためにも環境は大事ね。

将来の夢は?

これからは働き盛りの世代に向けて口腔ケアの大切さを伝えられたらと考えています。人生100年時代。何歳になっても健康に気をつけていけば何でも出来ると思うのよ。面白い方を選んだ方が楽しいじゃない。まだまだやりますよ!



(株)Teeth Ai

所在地: 富山市五福531-4
TEL: 076-481-8020
HP: https://teeth-ai.net



ジブンらしく生きる 2

外見を変えると内面も変わる 価値をあげるためのメンズ美容

化粧水をつける、脱毛をする、眉毛を整えるなどの身だしなみは女性のものだけとされていました。しかし、近年富山でも脱毛、眉毛サロンなどのメンズ美容が盛り上がりを見せています。富山市内でメンズ美容事業を主宰している百塚慎哉さんをご紹介します。

起業したきっかけは？

当初は父の事業をそのまま継いでアパレルでやっていこうと思っていました。時代の波もあり、このまま同じことをやってもダメだなと。そんなときにメンズ脱毛サロンを開業しようと思ったんです。

脱毛という美容のジャンルになりますが、美容にはいつ頃から関心があったのですか？

中学生のときから化粧水に興味があり、大学生のときから使っています。ムダ毛に関しては、昔から毛が嫌だなとか、もう少し薄い方がいいなとかは思っていましたね。

メンズ脱毛を選択した理由は？

東京では数年前からメンズ脱毛が一般的になってきます。サッカーやバスケのプロ選手に加えて、YouTuberなどのインフルエンサーもメンズ脱毛をしている時代になったからです。富山にも昔メンズ脱毛のお店があったようですが、その頃より時代が来ているなど…。起業して3年になりますが、半年ぐらいで手応えを感じましたね。

メンズ脱毛が浸透してきている理由はなんですか？

女性の社会進出がきっかけではないでしょうか？職場にも女性の価値観が広がっているからだだと思います。見た目だてキレイな方がいいですもんね。



メンズ専門脱毛サロン「Recze」。男性スタッフが接客してくれるのも人気の秘密。



メンズ専門眉毛サロン「Rebro」。眉毛で印象が変わり、髪型にも幅が広がるそう。



メンズコスメ「CUSTOM」。簡単な質問に答えると肌質に合わせた化粧水と乳液を選択してくれる。

メンズ専門脱毛サロン Recze

所在地：富山市下新町5-27
TEL：076-482-3464
HP：http://www.recze.jp

メンズ専門眉毛サロン Rebro

所在地：富山市太田口通り3丁目1-13
TEL：070-4307-9421

CUSTOM

HP：https://custom-cosme.jp



profile ひやくづか しん や 百塚 慎哉 さん

1987年生まれ。株式会社Rector(レクトル)代表。祖父の代では呉服、父の代ではアパレル事業を営む家に生まれ育つ。2018年にメンズ専門脱毛サロン「Recze(レクゼ)」, 2021年にはメンズ専門眉毛サロン「Rebro(レプロ)」を立ち上げる。メンズ化粧水「CUSTOM(カスタム)」のプロデュース、販売も手がけている。

お客様はどの世代が多いですか？

眉毛サロンで一番多い世代は18歳から25歳になりますが、70代の方もいらっしゃいます。脱毛サロンの客層は幅広く…10代から30代が多いですね。最近では40代、50代のお客様も増えてきました。

やりがいを感じる場所は？

外見が変わることで内面も変わります。お客さんが変化を感じて喜んでくださるのが一番嬉しいことです。コンプレックスをなくし、お客さんがハッピーに感じる事が一番だと思います。

今後の目標は？

富山のメンズ美容の普及に関して使命感を感じています。盛り上げるためにも男性がもっと気軽に美容に触れられるよう挑戦していきたいです。

ジブンらしく生きる 3

独学でミシンをマスター 何かを作りたいという気持ちが原点

料理や掃除をする男性は増えてきましたが、裁縫やミシンとなるとまだまだ敷居が高いのではないのでしょうか。そこで、ものづくりが好きすぎて自分のお店を持つまでに至った高島哲夫さんに、店名の由来ともなったミシンとの出会いやものづくりの魅力、お仕事のことなどについて伺いました。

まずは、ミシンを始めようと思われたきっかけをお教えてください。

最初からミシンだったわけではないんですよ。何かを作って売りたい、溶接や金属加工にもチャレンジしたんですがしっくりこなくて。たまたま買ったミシンで帽子を作ってみたらうまくいきました。きっとミシンとの相性が良かったんでしょうね。

ミシンの使い方はどのようにして学ばれたのですか？

ネットや本を参考に我流でやっていましたが、偶然知り合った手芸の先生に「これだけでできれば大丈夫、好きにやってみなさい!」と言われて自信を持ちました。デザインには1カ月以上かけますが、縫うのは早いですよ。

店内の商品はすべてお一人で作っているのですか？

デザインから縫製、販売まですべて一人でやっています。小さなプロダクト(製品)でも、ネット販売に力を入れれば、全国を相手にできると思って始めました。商品が役に立ったという声を聞いたときや、僕の作った商品を使っている人を街で見かけたときには、この仕事をやってよかったと思います。

お客様は男性女性どちらが多いですか？

お客様の男女比は半々くらいですね。そもそもアウトドアグッズは男女兼用できますし、違いがあるとしたらサイズの大小くらいでしょうか。商品を作るときに男女の違いを意識したことはあまりないですね。



店内の工房にはミシンが4台。ここから魅力的な商品が生まれる。



カラフルで使い勝手のよさそうな、高島さん製作のアウトドアグッズが並ぶ店内。



profile たかしま てつ お 高島 哲夫 さん

1983年生まれ。高校卒業後、電気機器メーカーで半導体製造業務などに従事。その後、自分の手で何かを作って売る仕事がしたいと、2013年に職業用ミシンを購入。独学で操作方法をマスターし、2015年、神通本町にてアウトドアホビーショップ「テツオミシン」オープン。

これからものづくりを始めようとする方に向けて、何かメッセージはありますか？

実は10年ほど前から、アウトドアの世界において、「MYOG (make your own gear)」というムーブメントが起きています。要するに道具は自分で作れということですが、最近は男性でもハンドメイドをされる方が増えましたね。やはり、自分で作るからこそ楽しいんです。例えば、雨の日に自分で作ったカッパを着て、「あ…自分で雨しのいでる!」と思ったときの感動は大きいですよ。

将来の夢は？

「テツオミシン」のイメージとはまったく違ったテイストのものを作りたいですね。それを店名は伏せてコソソリ売り出したら楽しいだろうなあ(笑)。



富山駅から徒歩6分。ロゴの入った赤い看板が目印。(2021年10月より新しいロゴに変わりました)

テツオミシン

所在地：富山市神通本町2-3-20
TEL：076-471-8890
HP：https://tetsuo-mishin.com

いま知りたい! ジブンらしく輝く 富山市「制服」最前線!!

学校制服は時代に合わせて変化・発展しています。

近年においても、市内の一部の中学校で、様々な理由から制服を選ぶことができるようになるなど、制服を取り巻く環境は今も変化し続けています。

今回は、富山市の「制服」の最新情報について、創業55年の老舗制服メーカー、株式会社スクールエーに取材しました。

▶制服には採用され続ける良さがあります

「制服は、学生の皆さんが毎日の学校生活を共に過ごす重要アイテム。自分らしく充実した日々を送るためにストレス無く着用し、活動的な機能性や耐久性を備えたものを提供しています。」と清水店長は話します。「詰襟」に「セーラー服」、「ブレザー」、「スラックス」や「スカート」といった様々な種類の制服が並ぶスクールエーの店内。時代と共に進化してきた学生服の良さを知っているからこそ、それを着用する地域の子どもたちをよりよく支えたいという想いは、会社創業時から変わらないそうです。

学生にとっては、毎日の通学に迷いなく着ることができる制服はとても便利。どんな場面でも不都合なく使えるので重宝します。また、価格を抑えた学生服を提供しようとする生産サイドの努力と技術進歩によって、多くの学生が無理なく「制服」を着用できる環境が出来ています。

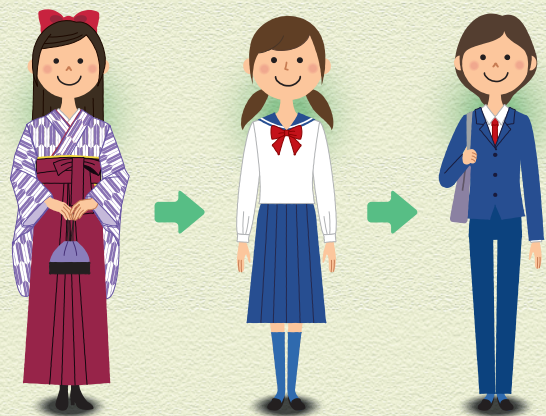
一方、教育現場においても、制服を着用することによる身だしなみなどのマナーやエチケットの修得、集団生活への意識づけに繋げることができるなどの利点があります。



「制服を長く愛して使用してもらうために、適度に流行を取り入れたデザインや、激しい動きにも対応できる強度のある素材を選んでいきます。寒さにも対応しやすいスラックス（長ズボン）を男女共に展開するなど、選択肢を増やす努力は惜しみません。」と清水店長の力強い言葉に、制服メーカーとしての自信と情熱を感じました。

社会の在り方を反映した制服の変遷

現代の学校制服は、近代(明治20年代から30年代)に欧米の服装様式を導入し、洋服の着用が近代国家を担う人材のシンボルとされたことが始まりと言われています。当時は男子の学校制服はいち早く「洋服」を採用、続いて女子の学校制服には「和服」の袴着用のスタイルが採用されました。その後主流となった「詰襟」「セーラー服」といった学生服も、流行や学生の好みなどの変化に伴い、「ブレザー」に「スラックス」や「スカート」を合わせたスタイルなども採用されてきています。



▶制服は今も変化し続けています

シャツのボタンを開けたり、裾を出してみたり、リボンを変わり結びにしたり…。青春時代の私にも「自分らしさ」を表現していた経験があります。

「個性を出したいために、デザインの原型を変えて着用する方もいらっしゃるようです。その時々流行だったり、暑さ寒さといった環境対応であったり、着用する側の想いも受け止め、制服本来の良さを損なわないような新しい提案をすることもあります。」と清水店長。

例えば、暑さ対策として夏制服にポロシャツを使用したり、寒さ対策で生地の変更や女子学生のスラックスを導入するなど、教育現場との対話を重ね、協力して取り組んでいるとか。「富山は暑さ寒さが厳しいので、状況や好みに応じて誰もが自分に合った物を選ぶことで、子どもたちに楽しく充実した学校生活を過ごしてもらえると嬉しいです。」との作り手の思いやりあふれる言葉に心が熱くなりました。

このように子どもたちがジブンらしく学校生活を送ることができるよう、制服は絶えず変化・進化し続けています。

▶制服は持続可能な社会に向けた活動のひとつです



株式会社スクールエー 清水店長

「制服を長く着用していただくことは、SDGs(※)にも繋がることなんです。もちろん、会社としても環境に配慮したメーカーの生地を使って制服を製造したり、メーカーで扱うリサイクル企画商品を提案したりするなど直接的な活動も意識しています。しかし、なによりお客様のために、製造・販売・アフターフォローといった創業時から変わらない姿勢で、使用中の制服のサイズ調整や修理等でいかに長く使ってもらえるかを考えています。」との清水店長の言葉から、改めて「ものを大切にする」ことを学びました。

持続可能な社会を構築するためには、様々な変化に柔軟に対応していくことが必要です。昔ながらの良さを残しながらも、社会に対応して変化し続け、現代に至るまで着用され続ける「制服」には、持続可能な社会に繋がるヒントが多く含まれているのかもしれない。

持続可能な社会を構築するためには、様々な変化に柔軟に対応していくことが必要です。昔ながらの良さを残しながらも、社会に対応して変化し続け、現代に至るまで着用され続ける「制服」には、持続可能な社会に繋がるヒントが多く含まれているのかもしれない。

※Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標

「女子制服のスラックス」を導入した中学校に聞きました!

「自転車通学時の不都合」「清掃活動での動き辛さ」「寒い時期の防寒」など、学校生活を快適にジブンらしく過ごしたいとの想いをもった生徒や保護者からの要望をきっかけに、この中学校では、女子の制服にスラックスを導入しました。



生徒たちからは「学校生活が過ごしやすくなった!」と好評で、先生からも「生徒自身で判断して使い分ける様子も見られ、導入して良かった。」との好反応。教育現場の柔軟で迅速な対応が、富山市で学ぶ子どもたちの毎日をしっかりサポートしていることも、この取材を通して実感しました。

「制服」以外にもある!

「過ごしやすい学校生活」最新情報

学帽を「キャップタイプ」と「ハットタイプ」から選べる、リュック通学・通学時の日傘使用OKなど市内の小中学校では、機能性・利便性の面などから学校生活がより良くなる工夫が広がっています!



株式会社スクールエー

所在地：富山市上本町7-3
TEL：076-425-4819
HP：http://www.school-a.jp
事業内容：学校制服の生産・販売

女性たちがジブンらしく輝く社会には 未来へつながる希望がある

～それを応援し支える活動とは?～

共働きで、仕事に家事にと奮闘する女性が多い富山市。仕事や家事・育児に追われながらも、「ジブンらしく輝きたい」と願う女性たちの心の霧をスッキリ晴らすには、何から着手すればいいのでしょうか。そこで「ジブンらしく輝く」女性の魅力を発信し、人と人とを繋げる情報で女性の活躍を応援する株式会社クルサーの取り組みを取材しました。

▶女性が「ジブンらしく」生きる 応援をしたい

株式会社クルサーは、全ての女性がジブンらしく生きやすい社会を目標に、イベントの開催などを通じて女性活躍の支援を行っています。その活動の一つとして実施しているのが、自分で選んだ人生を生き活きと生きる女性を取材し紹介する「これが私の生きる道」プロジェクト。「ジブンらしく輝く」女性の魅力や生き方について、様々な情報を発信することで、新たな一歩を踏み出すきっかけとしてもらうこと、また、思いを分かち合える仲間づくりに繋がることを目指しています。「自分の生きてきた道を振り返ったとき、人生のタイミングごとに必要な手助けがあれば女性をもっと生きやすいと思いました。」と話される代表の牧さん。「誰もが、すぐに人に頼れる環境をもっては限りません。困った時に一番身近にいる家族にSOSを出せず、限界まで我慢し、踏ん張っている女性も少なくありません。これでは家庭や社会の好循環につながるとは考えにくいですね。」と、女性たちの声に日々耳を傾け、感じたことがこのプロジェクトを立ち上げたきっかけです。

「私も育児と家事、そして仕事に追われて、自分の時間なんてほとんどありませんでした。夜中にほんの少しある自分のための時間が宝物。自分のために使う時間を意識して作るようにすると、ライフスタイルにバランスがとれて良いですね。」と牧さんの実体験からのアドバイスも。



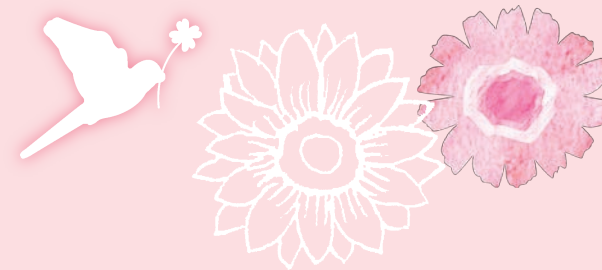
株式会社クルサー
代表取締役 牧 真奈美 さん

▶持続可能な社会を構築するためには 女性の活躍への支援が不可欠

牧さんは、「やりがいをもって働くお母さんたちを支える一助として、学童保育もさらに充実させたいです。親や家族の姿を通じて生きること、働くことの素晴らしさを伝えることは、子どもたちが未来に希望を持つことに繋がります。また、悩みや困りごとのある子どもに寄り添い助けられたら、それがのちに貧困や生活格差を無くし、自分や他者の命を大切にすることにつながると思います。」とあふれ出る熱い思いを話してくださいました。近年、子どもが保育園等で過ごしたり、学童保育を利用したりする家庭が多くなっています。子どもたちが両親や家族の元を離れて過ごす時間を有意義なものにできれば、家庭を支えると同時に、子どもたちの成長に必要な「生きる知恵」と「環境」がさらに整い、ひいては、より良い未来へ繋がります。女性活躍を応援する社会は、持続可能な社会の礎になるのかもしれない。



和気あいあいと進む取材風景



▶人生の第2ステージでも輝いてほしい

“女性活躍の支援”では、仕事と家事・育児等の両立について取り上げられることが多いですが、株式会社クルサーではさらにその先に注目し、子育てから手が離れた世代の女性を対象としたWebサイト「ラ・シック」をスタートしています。「女の子」はこうあるべきと教えられて成長し、「雇用環境」の激変にもその競争から逃げることなく、「女性の自立」を合言葉のように注目されながら、結婚・出産すれば家事や子育てを一手に引き受け、「善き妻」として夫を支える毎日、常にライフスタイルを模索し続けてきた世代が「ラ・シック」の主人公です。

「人生100年なら、ちょうど折り返し地点となる時期。新しいことに挑戦したいと思う人、何かを見つけようとしている人、何をすればいいのかわからない人…。どんな人生も、まだまだ輝けると思えたら楽しいでしょ!」と牧さん。

「ラ・シック」では、人生の第2ステージを模索する女性たちの案内役として、「ジブンらしく輝く」生き方を見つけ躍動する女性を紹介しています。他者を知ることが自分を知る契機になり、一歩踏み出そうとする原動力になることもあります。これも未来へ繋がる希望を応援し支える活動の一つなのです。



人生の第2ステージを生きる
女性たちのためのサイト「ラ・シック」
HP : <http://www.la-chic2021.com>



ラ・シック
La-chic

「ラ・シック」の活動に潜入取材!

「ラ・シック」では、情報交換と親睦を目的としたイベントを定期的で開催する計画もあります。

12月初旬に行われた交流会「ランカルパーティー」第一弾にタイミングよく参加できました。クリスマスシーズンということもあって、プリザーブドフラワーアレンジメントの講師を招き、参加者10名ほどで和やかなアレンジメント教室からスタート。作業をしながら各々の仕事や生活環境の会話ははずみ、みんなが打ち解けるのにさほど時間はかかりませんでした。完成したアレンジメントを飾っての撮影会もおおいに盛り上がりました。



後半は、今回のイベント会場になっていたル・セジュール・ジュンのケーキでティータイム。講師やラ・シックのスタッフも一緒になって和気あいあい。参加したみなさんは立場こそ様々ですが、「ラ・シック世代」という共通点で友人も増え、素敵な時間に大満足の様子でした。

▶ジブンらしく人生を楽しもう!

取材の最後にとっても共感できた言葉がありました。「とにかくジブンらしく前向きに、やってみたいことやできそうなことを始めてみる。大切なのは自分自身が希望を持つこと。そうしていると何かを見つけたり、支えてくれる誰かにつながり、その活動を応援してくれる環境ができていきます。」小さな一歩から世界が広がれば、人生はもっと楽しくなっていきます。株式会社クルサーは、全ての女性をもっとジブンらしく生きていけるよう、これまでもこれからも自分達のできることを探りながら、多くの女性に寄り添っていきそうです。



株式会社クルサー

所在地：富山市吉作486-33
TEL：076-411-5151
HP：<https://kurusajp>
事業内容：女性活躍についての情報発信、イベントの開催などジブンらしく生きる女性の応援

市民フェスティバル 2021

一人ひとりがその個性を発揮し、互いに支え合う男女共同参画社会を実現するために、「男女共同参画とやま市民フェスティバル2021」が開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響などを考慮し、オンラインでの録画配信により講演会が行われました。



講演会「広がる可能性と夢の実現～みんなに必要な新しい働き方～」

講師：中村 朱美 さん (株式会社 minitts 代表取締役) 配信期間：令和3年11月28日(日)～12月4日(土)

『売上を、減らそう。』というご自身の著書のタイトルにもあるように、世間の常識を覆すビジネスモデルを展開、その実績と社会への発信力から数々の賞を受賞し、注目されている経営者、中村朱美さん。講演では、中村さんの実体験をもとに、『①100食という「制約」が生んだメリット』、『②真の働き方改革とは』、『③コロナ禍での敗北と反撃そしてその先へ』、『④新規事業はピンチから始まる』という4部構成でお話いただきました。

中村さんは、家庭では小さい2人のお子さんを持つお母さん。9年前、夫の作る「ステーキ丼」があまりに美味しく、ぜひほかの方にも味わってほしいと、飲食店や会社経営の経験もないのに出店に踏み切りました。

そのお店の名前が「佰食屋(ひやくしょくや)」。富山ではなじみがないかも知れませんが、京都では知る人ぞ知る人気店です。文字通り、1日100食を売り切ることで、残業や食品ロス、電力使用量を減らしたエコ経営を実践しています。また、自らも仕事を持つ母親として、誰もが無理なく働ける仕組みを提案。社員に「自己決定権」を持たせることでモチベーションを上げ、社員同士の信頼関係により急なシフト調整にも対応できるという、居心地のいい職場づくり

を目指しました。その結果、ワークライフバランスに配慮した柔軟な働き方ができることから、障害のある方、高齢者、シングルマザーなど様々な背景のある社員が増え、ダイバーシティを実現した会社となりました。



一方で、このコロナ禍では、やはり人気店といえども相当なダメージを受けたようです。フランチャイズ展開を進めていた小規模店「佰食屋 1/2」の撤退を余儀なくされましたが、その際に得た気付きから「防災筋力」という新しいビジネスモデルを創案、コンセプトを披露されました。

どこからでもご本人だとわかるよう、必ずブルーの服を着て、同じヘアスタイルで現れるという中村さん。今回はオンライン配信ということで、実際にお目にかかることはできませんでしたが、ご自身の言葉で感情をこめて淀みなく語りかけるその姿に、人生を豊かに生きるヒントがたくさん隠されていたように感じました。

時代の一步先を行く経営者として、また家庭人として、中村さんが次に描く未来図はどんな色をしているのか楽しみですね。



トレードマークの青い服で軽快に話す中村さん

なかむらあけみ 中村朱美さん profile

1984年京都府亀岡市生まれ。専門学校の職員として勤務後、2012年9月に飲食事業や不動産事業を行う「株式会社 minitts」を設立。1日100食限定をコンセプトに、美味しいものを手頃な値段で食べられるお店「佰食屋」を行列のできる人気店へ成長させる。ランチ営業のみ、完売次第営業終了という飲食店の常識を覆す経営手法で、飲食店でのワークライフバランスとフードロスゼロを実現し、日経WOMAN ウーマンオブザイヤー2019 大賞等、数々の賞を受賞。

令和3年度

男女共同参画社会づくり 作文コンクール

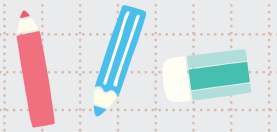


富山市では、性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現に向けた意識づくりのため、市内の中学生を対象に、毎年、男女共同参画に関する作文を募集しています。今年度は、417点の応募があり、その中から入賞された方と最優秀賞受賞作品を紹介します。

最優秀賞

夫婦の役割分担の多様性

片山学園中学校3年 高安 玲杏



男性は外で働き、女性は家庭で家事や育児をする、というスタイルは、現代では見直されるべきだとされている。確かに私も、性別によって夫、または妻としての役割が決まってしまうのはおかしいと思う。男性が家事や育児をこなして、女性が仕事してお金を稼ぐという昔にはなかった考え方が、世の中の「当たり前」としてもっと広まって、世間一般の思想を更新していく必要がある。

しかし、仮に「男性は仕事、女性は家事、というスタイルを変えるべき」という意見を貫くとすると、一つおかしなことがある。昔ながらの思想に倣って、男性は仕事、女性は家事、という分担が不正解だとされてしまうことだ。

私の祖父母の世代は、昔ながらの思想が主流であったため、私の母は夫である私の父の両親と関わっていくうちに、自分との夫婦の考え方の違いを実感したらしい。母は、妻である自分は子育てのみに集中していると自分の夫の

両親に伝え、内緒でパートタイムで働いた。夫の両親に心配をかけないために、あえて働いていたことを言わなかったという。きっと当時の母は「自分たちのやり方」を優先しつつも、夫の両親の考え方を否定しないようにしようと考えていたのだと思う。

私はこの体験談を聞いて、昔ながらの思想にとらわれない、というよりは、「他人との考え方の違い」とにとらわれない、ということが大事だと思った。それぞれが、自分たちらしく活動していくのが一番だと思う。夫婦の役割の分担が人によって異なるのは、当然前のことで、他の夫婦を見て、彼らを否定してはならないし、逆に自分たちが変わる必要もない。これからは、夫婦で手を取り合って、対等な立場で、互いに家族を養ってゆける関係が、多種多様な形で築かれていくべきだ。

優秀賞

「自分らしく生きられる世界」

片山学園中学校2年 大浦 彩波

男性・女性の在り方

片山学園中学校3年 齊藤 利叶子

佳作

社会全体で支え合っていくために

堀川中学校3年 相地 葵生

おじの育休取得で感じたこと

堀川中学校1年 大橋 美亜子

認め合える社会へ

南部中学校3年 岡本 愛佳

「自分らしく」生きやすい世の中へ

西部中学校2年 角 綾花

～性別にとらわれない社会を目指して～

南部中学校1年 楠本 陽

「箱」を壊せ

堀川中学校1年 村田 朔桜

「一人一人が輝ける社会を」

西部中学校2年 山岸 祐大



優秀賞受賞作品はこちらに掲載しています。

男女平等とは

堀川中学校3年 沢永 小夏

産後でも女性が輝ける社会

片山学園中学校3年 武内 泉樹

紫色の社会を目指して

八尾中学校2年 谷井 真緒

性のイメージ

芝園中学校3年 長井 美羽

輝く参画社会への第一歩

堀川中学校3年 森川 真尋



(敬称略・五十音順)

男女共同参画推進センターからのお知らせ

男女共同参画
サテライト講座を
開催しました!

男女共同参画サテライト講座

「地域防災に女性の視点を」

■日時：令和3年10月9日(土) 14:00~15:30 ■場所：古里公民館(婦中町羽根6)

■講師：中村 晴美さん(特定非営利活動法人 富山県防災士会)



近年、地震をはじめ洪水や土砂災害など自然災害が多発し、甚大な被害が出ています。地域の防災力を高めるために、日頃の取り組みや避難所運営について、これからは女性の参画が重要になってくることをお話させていただきました。



男女共同参画講座を
開催しています

男女共同参画に関するテーマで、さまざまな学習啓発講座を無料で開催しています。詳細は広報とやまに随時掲載します。どうぞお気軽にご参加ください。

各種相談を行っています

相談日程は、毎月、広報とやま20日号で案内しています。

●DV(配偶者・パートナーからの暴力)相談

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、配偶者や恋人など親密な関係にある人からの暴力のことを言います。夫婦・パートナー間の悩みなど、ひとりで悩まず、ご相談ください。

●弁護士による夫婦・男女に関する法律相談

●女性臨床心理士による夫婦・男女に関する悩み相談

ひとりで
悩まないで



●DV相談 専用電話 Tel.076-433-2210

※来所相談については、電話予約をお願いします。

●お問い合わせ

富山市男女共同参画推進センター

CIC3階：新富町一丁目 Tel.076-433-1760

編集後記



岡田 真寿美 編集委員

「男と女は同じ人間なのに一体何が違うのだろう」。そんな疑問を感じながら、時に見過ごされてきた性差別をたまに感じながら生きてきました。とは言うものの、私自身も「らしさ」に気づかないうちに囚われていたかもしれません。今回取材させていただいた方々の「らしさ」に囚われない「人間力」を見習って、エネルギーに生きていきたいなど実感しました。

今回の「あいのかぜ」はいかがでしたか?来期も充実した内容をお届けします。お楽しみに!



木津 和佳代 編集委員

私が中高生だった頃は「家庭科」は女子だけが学ぶ科目だったので、高島さんのように器用にミシンを使いこなす雑貨まで作ってしまう男性がいることは驚きでした。しかし今の時代、家庭科は男女必修。ミシンや針仕事に抵抗のない男性が増えていると聞き、世代によるジェンダー観の違いに気付かされました。

また、作文コンクールの審査をさせていただきましたが、中学生の皆さんが弱い立場の人々を思いやり、しっかりと自分の意見を述べていることに感激しました。



能登 香織 編集委員

豊かな社会とは、すべての人が無条件に個性を発揮できる環境にあります。

未来創りの主人公である学生たちのために教育現場と向き合う会社、ひとりで何役もこなす女性たちをフォローする会社、さらにはそれらの会社を応援する地域や行政。横にも縦にも伸びて繋がる思いやりの心を、「アナタらしく輝ける社会」の取材を通して強く感じました。少し視点を変えるだけで、新しい社会の在り方が見えたと感じます。この「あいのかぜ」が、みなさんに優しい繋がりを届けてくれますように。

■編集・発行

富山市市民生活部 男女参画・市民協働課

〒930-8510 富山市新桜町7-38 Tel.076-443-2051 Fax.076-443-2176

E-mail : danjo-01@city.toyama.lg.jp

この号の発刊に際しまして、
多くの方々にご協力いただき、
ありがとうございました。

バックナンバーを
公開しています。



2022年3月発行